

B 61 反応染料による木綿の手描き模様染めの研究  
名古屋女大短大 青木 稔

目的 反応染料はセルロース繊維・タン白質繊維などに強く結合して堅ろうな染色が得られ、近年木綿の浸染・捺染に広く利用されるようになったが、手芸染色における木綿の模様染めの一つとして、反応染料を含む色糊で筆描きした上、固着させることができれば至って堅ろう・鮮明で、また思いのままのデザインの染色作品となり得ると考え、その手法を見出すべく本研究を実施した。

方法 1) 試料 綿布：シルケット加工・サンホライズ加工済みのブロード 反応染料：住友化学工業株式会社製 Sumifix Dyestuffs の各種 2) 試料布の準備 反応染料の固着のため、綿ブロードを10%炭酸ナトリウム溶液に30分浸漬し、絞り上げて自然乾燥させ試料布とした。 3) 元糊の調製 反応染料を混ぜて筆描きに使う色糊は綿ブロードによく吸収し且つ滲まないものとなるよう元糊の材料・配合を種々検討した。 4) 蒸し時間の検討 もっともよい固着発色を得る「蒸し」の時間を探るため、10種の染料を使った色糊で手描きしたものを5分・10分・20分および30分間の4通りに蒸し、染色結果を検討した。

結果 元糊としては右に示す処方得られるものかもっとも良好と認められ、また「蒸し」時間は15分前後が適当であることが判明した。今回開発した手法により、綿布を使って極めて堅ろう、自由自在の手描き模様の染色品を制作できるようになった。デザインを考えれば、絵画のようなものにもなり、部屋に掲げても恥ずかしくないものを作り得る。すでに、何枚かの試作品があるので、現物をお見せしたい。

元糊の処方

生穀糊	10g
米ぬか	5g
塩化ナトリウム	1g
水	90ml